

生き方 豊かだけど不安な中で



■学費が重くのしかかる
「大学がフードバンクを開設」経済危機の只中にあるアメリカで手に取った新聞の中で、こんな記事を目にした。親の失業等の事情で経済的に困窮し、日々の生活にも事欠く学生が増えており、その学生たちに食糧や生活必需品を提供するのだという。記事には、住むところがなく車で寝泊りしていた学生の例も挙げられ、経済的な事情から退学を余儀なくされる学生を救済すべく、大学が対応に追われる現状が書かれていた。学費の負担を軽減するため、私立から公立の大学への編入を希望する学生も増えていると聞く。

手ごわい消費者 大学生の胸の内

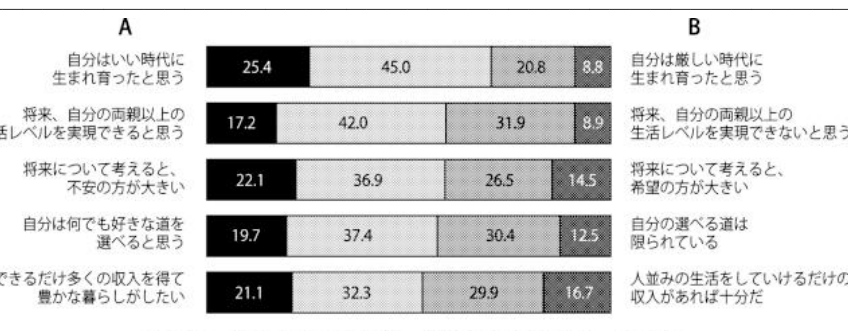
■慎重で手ごわい消費者
その背景には、大学生たちが抱く将来への漠然とした不安がある。自身が育ってきた時代や、将来の見通しについて尋ねた結果からは、大学生たちは、自身について「恵まれている」「いい時代に生まれて育った」と感じる一方で、「いい時代がこれからも続くとは限らない」と考えていることがうかがえる。「これからの日本はどうなっていくか」という質問に対しては全体の半数以上(52・8%)が「今より悪くなると思う」と答え、自身の将来についても「不安の方が大きい」(59・0%)が「希望の方が大きい」(41・0%)を上回っている。「将来、自分の両親以上の生活レベルを実現できると思うか」という設問では、「できると思う」(59・2%)が優勢ではあるものの、約4割が「できない」と思っている。

■「レジャーランド」は過去のものに
HRIが昨年9月に実施した「大学生の価値観とライフスタイル調査」(WEBアンケート)で、全国の大学生・大学院生の男女2000名を対象)では、全体の約75%が「学費のすべてを保護者に負担し

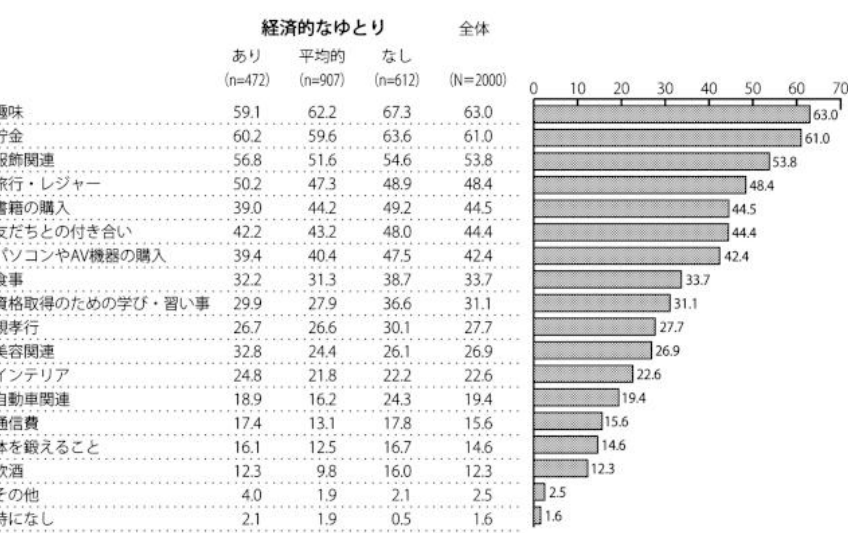
てもらっている」と回答する中、自身の負担分(奨学金を含む)の方が多いという学生も約1割いた(保護者に経済的ゆとりがない家庭では2割)。また、保護者の経済的なゆとりの有無に関わらず、約6割がアルバイトをしていることが示されている。

■「消費」より「投資」を志向
しかし、見方を変えれば、そこには従来とは違った形での機会も見出せそうだ。まず注目すべきは、彼らが欲しているものが非常に多様化していることである。将来「都会に住みたい」とする人が約4割いる一方で、「田舎に住みたい」も約3割を占め、「自給自足の生活をした」という志向を持つ人も1割にのぼる。

■「海外旅行をしたい」と4割が希望する一方で、3割が「日本一周旅行をしたい」という希望を示している。都内の大学生を対象に実施したインタビューの中では、「趣味は、何か人から『意外だね』と言われるようなことにチャレンジしたい。まだ、これと違うものは見つからないけれど……」「人とは違う、個性的な存在でありたい」という声が多かった。一つの



図表1: 生まれ育った時代への評価と将来への見通し (A・Bのうち近い方を選択)



図表2: お金をかけたいこと (あてはまるものすべてを選択/全体・経済的なゆとり別)